

Title	大阪市立大学『大学教育』第7巻第2号刊行にあたって
Author	
Citation	大阪市立大学大学教育. 7巻2号, p.1.
Issue Date	2010-01
ISSN	1349-2152
Type	Others
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学教育研究センター
Description	
DOI	

Placed on: Osaka City University

■ 巻頭言

大阪市立大学『大学教育』第7巻第2号刊行にあたって

今号は、特集を組むこととし、「大阪市立大学における教育に関する調査」と題して、これまでに行った諸調査とそれらの結果の概要をまとめた。2003年4月に開設されてから、大学教育研究センターでは本学の教育をめぐる様々な状況を調査してきた。とりわけ専任研究員が当初の3名から5名になった2005年から手がけた調査は質量ともかなりの蓄積となっている。もとより調査を行う意義は、それにより得られた結果を手がかりに現実の諸側面を照射し、その後の改善に生かすというところにある。

そうした観点からすれば、諸調査によって私たちはすでに何を知り、今後何を明らかにしなければならないのを知ることにはきわめて大事なことである。これまでの調査を概括することにより、明らかになったことを再確認するとともに、わからないことを解明するために今後どのような調査が必要なのかが見えてくる。この特集で意図したのは、そうした、「わかったこと」の総括的整理である。

今号の特集は、いわば調査の調査ともいえる試みであり、センターのこれまでの調査研究の振り返りでもある。これはそもそも調査の結果をどう生かすのかを考えたり、今後の調査を設計するためのより所となるはずである。

本号を構成するもう一つのコンテンツは「第7回FD研究会報告」である。

2009年9月25日に行われた研究会には、全学8学部・10研究科の半数にあたる4つの学部・研究科から、それぞれの学部や研究科において行われてきたFDの取り組みが報告された。それぞれのところで教育の改善や工夫の試みが数多く行われている。そうした活動をすすめるプロセスにこそ、いわゆるFDの内実があるわけで、FDは教育改善のための努力をお題目のように呼びかけることではない。大学設置基準の改正により、いわゆるFDの義務化が盛り込まれたが、FDはそれよりもはるか前から、私たち教員の日常的な営みのなかに埋め込まれて続けられてきた。

第7回FD研究会は、本学で行われている日常的なFDの取り組みの一端を知る、貴重な機会であった。本学は決して大規模大学ではないが、部局や学科組織が異なると、どのような教育が行われているのか、それを知る手がかりが十分に用意されていなかった。研究会では、学部・研究科で行われている教育とその工夫・改善を共有することが、そしてそれをめぐって議論することが、きわめて刺激に富んだ営みであり、有益な果実を与えてくれることを体感することができた。

研究会の場の熱意まで伝えることはできないが、いただいた貴重な発表と議論の様子は十分に誌上に再現することができた。大学でのFDのあり方を考えていく手がかりの一つとして活用していただければ幸いである。